



## IDS-4215 の設置

---

この章では、IDS-4215 について説明し、さらにその設置方法について説明します。また、アクセサリの内容とその取り付け方法についても説明します。この章は、次の項で構成されています。

- [IDS-4215 の概要 \(P.3-2\)](#)
- [前面パネルと背面パネルの機能 \(P.3-2\)](#)
- [仕様 \(P.3-4\)](#)
- [アクセサリ \(P.3-5\)](#)
- [据え置き \(P.3-6\)](#)
- [ラックマウント \(P.3-7\)](#)
- [IDS-4215 の設置 \(P.3-9\)](#)
- [BIOS および ROMMON のアップグレード \(P.3-11\)](#)
- [シャーシカバーの取り外しと取り付け \(P.3-14\)](#)
- [IDE ハードディスク ドライブの取り外しと取り付け \(P.3-18\)](#)
- [コンパクトフラッシュ デバイスの取り外しと取り付け \(P.3-21\)](#)
- [4FE カードの取り外しと取り付け \(P.3-24\)](#)

## IDS-4215 の概要

IDS-4215 は、最大 80 Mbps の集約トラフィックを監視でき、T1/E1 環境および T3 環境に適合します。4 ポートのファーストイーサネット (4FE) カードを追加すると、IDS-4215 は、5 つのセンシングインターフェイス (10/100BASE-TX) をサポートできます。これらのインターフェイスは、複数のサブネットを同時に保護できます。



(注)

IDS-4215 の 80 Mbps のパフォーマンスは、5.1 つのセンシングインターフェイスすべてからのトラフィックの集約、新規 TCP 接続 800/ 秒、HTTP トランザクション 800/ 秒、平均パケットサイズ 445 バイト、および Cisco IPS 5.0 ソフトウェアがシステムで動作中という条件に基づいています。

センシングインターフェイスとコマンド/コントロールインターフェイスは、すべて 10/100BASE-TX です。

## 前面パネルと背面パネルの機能

この項では、IDS-4215 前面パネルと背面パネルの機能とインジケータについて説明します。

図 3-1 に、IDS-4215 の前面を示します。

図 3-1 IDS-4215 の前面パネルの機能

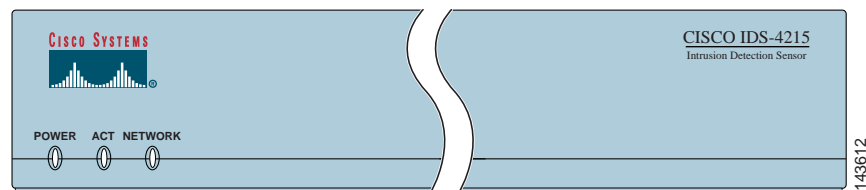


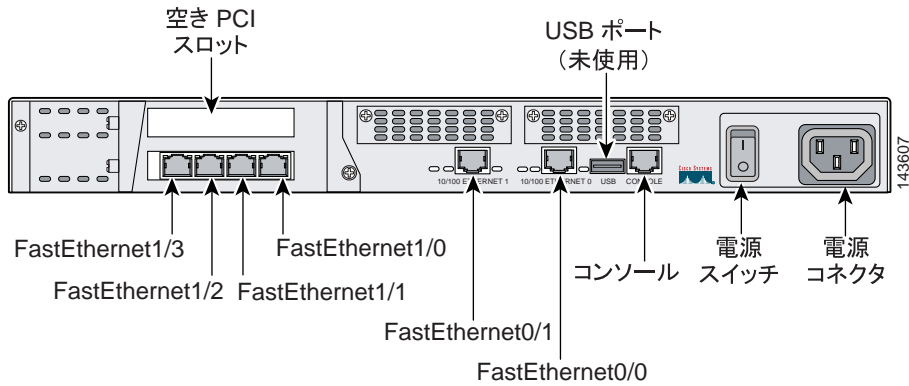
表 3-1 では、IDS-4215 の前面パネルインジケータについて説明します。

表 3-1 前面パネルインジケータ

インジケータ	説明
POWER	電源装置が動作中は点灯しています。
ACT	IDS-4215 の電源投入時のセルフテストが完了し、オペレーティングシステムとアプリケーションソフトウェアのロードプロセスが開始されたときに点灯します。
NETWORK	ネットワークトラフィックが 2 つの内蔵イーサネットポートのどちらかを通過しているときに点滅します。4FE カードの 4 つのポートのどれのトラフィックであるかを示すものではありません。

図 3-2 に、IDS-4215 の背面を示します。

図 3-2 IDS-4215 の背面パネルの機能



内蔵のイーサネットポートには、ポートあたり3つのインジケータがあり、4FEカードには、ポートあたり2つのインジケータがあります。図 3-3 に、背面パネルインジケータを示します。

図 3-3 IDS-4215

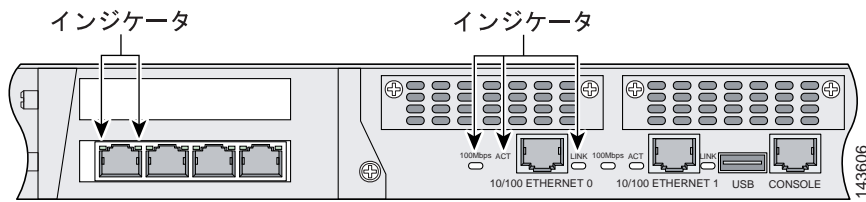


表 3-2 に、背面パネルインジケータを示します。

表 3-2 背面パネルインジケータ

インジケータ	説明
内蔵イーサネット	—
100 Mbps	ポートが 100 Mbps モードで動作しているときは点灯しています。10 Mbps モードで動作しているときは消えています。
Link	ポートが他のイーサネットポートに接続されており、トラフィックが両方のポート間を通過できるときに点灯しています。
ACT	ネットワークトラフィックがポートで受信されているときに点滅します。
4FE カード	—
LINK/アクティビティ	あるポートが別の動作中のイーサネットポートに接続されているが、両方のポート間にトラフィックがないときは点灯しています。イーサネットパケットの受信中は点滅します。
100 Mbps	ポートが 100 Mbps モードで動作しているときは点灯しています。ポートが 10 Mbps モードで動作しているときは消えています。

## 仕様

表 3-3 に、IDS-4215 の仕様を示します。

表 3-3 IDS-4215 の仕様

寸法と重量	
高さ	4.37 cm (1.72 インチ)
幅	42.72 cm (16.8 インチ)
奥行	29.97 cm (11.8 インチ)
重量	4.11 kg (11.5 ポンド)
フォーム ファクタ	1 RU、標準 19 インチ ラック 搭載可能
拡張性	32 ビット /33 MHz PCI スロットが 2 スロット
電源	
自動切り替え	100V ~ 240V AC
周波数	50 ~ 60 Hz、単相
動作電流	1.5 A
安定状態	50 W
最大ピーク	65 W
最大熱放散	410 BTU/時、電源最大使用時 (65 W)
環境	
温度	動作時 +5 ~ +40°C (+41 ~ +104°F) 非動作時 -25 ~ +70°C (-13 ~ +158 °F)
相対湿度	動作時 5 ~ 95 % (結露なし) 非動作時 5 ~ 95 % (結露なし)
高度	動作時 0 ~ 3000 m (0 ~ 9843 フィート) 非動作時 0 ~ 4750 m (0 ~ 15,000 フィート)
衝撃	動作時 1.14 m/s (45 インチ / 秒) 半正弦波入力 非動作時 30 G
振動	0.41 Grms <sup>2</sup> (3 ~ 500 Hz) ランダム入力
騒音	最大 54 dBa



(注)

4FE カード用に使用できる PCI 拡張スロットは 1 つだけです。下の PCI 拡張スロットに 4FE カードを取り付けることを推奨します。

## アクセサリ



### 安全上の重要な注意事項

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。装置の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止策をとるよう努めてください。警告の各国語版を参照するには、各注意事項の番号と、装置に付属の「Translation Safety Warnings」の番号を照らし合せてください。ステートメント 1071

これらの注意事項を保管しておいてください。



この装置の設置、交換、保守は、訓練を受けた相応の資格のある人が行ってください。ステートメント 1030

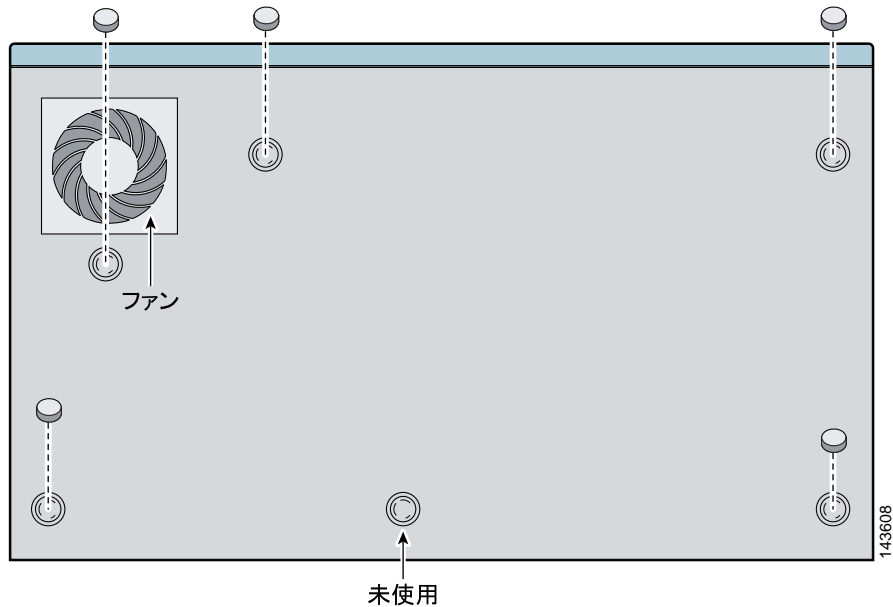
IDS-4215 アクセサリ キットには、次の品目が含まれています。

- DB25F/RJ45F アダプタ
- DB9F/RJ45F アダプタ
- ゴム脚
- ラック搭載キット：ネジ、ワッシャ、ブラケット
- RJ45 コンソール ケーブル
- 6 フィート イーサネット ケーブル

## 据え置き

IDS-4215 をラックに搭載しない場合は、図 3-4 に示すように IDS-4215 の底部にゴム脚を取り付ける必要があります。ゴム脚はアクセサリ キットに含まれています。

図 3-4 IDS-4215 の据え置き



### 注意

冷却機能と信頼性を適切に維持するため、IDS-4215 をラックに搭載しないで据え置きする場合は、ゴム脚を取り付けてください。ゴム脚を使用すると、IDS-4215 の周りに適正なエアフローが確保され、振動を吸収するので、ハードディスクドライブへの衝撃が軽減されます。

## ラックマウント



### 警告

この装置をラックに搭載するとき、またはラック内の装置の保守を行うときは、怪我をしないために、特に注意してシステムが不安定にならないようにしてください。次のガイドラインは、安全に作業を行ってもらうために用意してあります。この装置は、ラックに1つだけの場合は、一番下に搭載するようにしてください。ラックにすでに他の装置が搭載されている場合は、最も重いコンポーネントをラックの一番下にして、重い順に下から上へと搭載するようにしてください。ラックに安定用器具が付属しているときは、それを取り付けてから、ラックに装置を搭載してください。

IDS-4215 に 4FE カードを取り付ける場合は、4FE カードを取り付けた後、マウントブラケットを取り付けます。



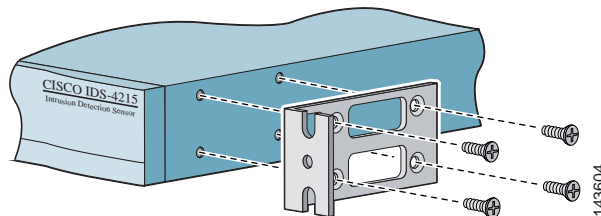
### (注)

4FE カードを適切に取り付けたり、取り外したりするには、IDS-4215 のシャーシカバーを取り外す必要があります。シャーシカバーの取り外しと戻し方については、P.3-14 の「シャーシカバーの取り外しと取り付け」を参照してください。IDS-4215 に 4FE カードを取り付ける方法については、P.3-26 の「4FE カードの取り付け」を参照してください。

IDS-4215 をラックに搭載するには、次の手順を実行します。

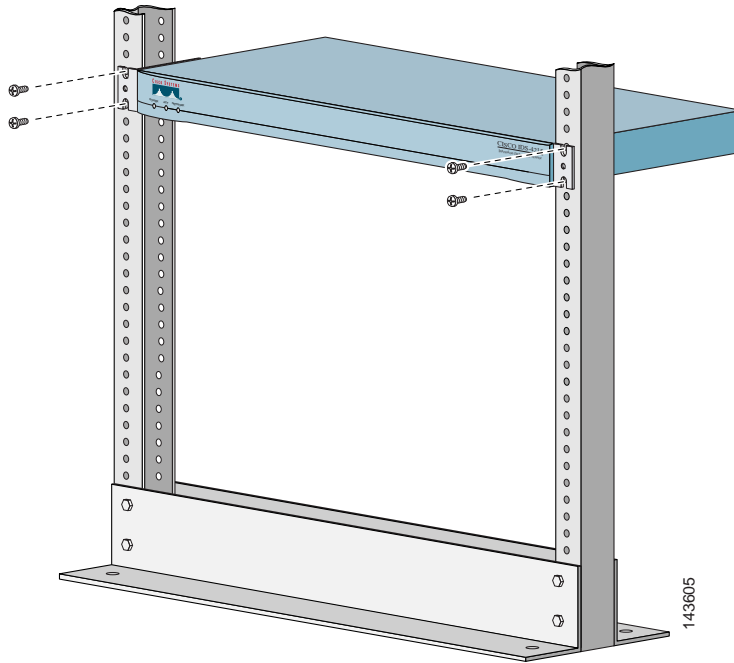
**ステップ 1** 付属のネジを使用して、IDS-4215 にブラケットを取り付けます。

IDS-4215 の前面付近の穴にブラケットを取り付けることができます。



## ■ ラックマウント

ステップ2 IDS-4215 を装置ラックに搭載します。





## IDS-4215 の設置



## 警告

この装置の設置、交換、保守は、訓練を受けた相応の資格のある人が行ってください。ステートメント 1030

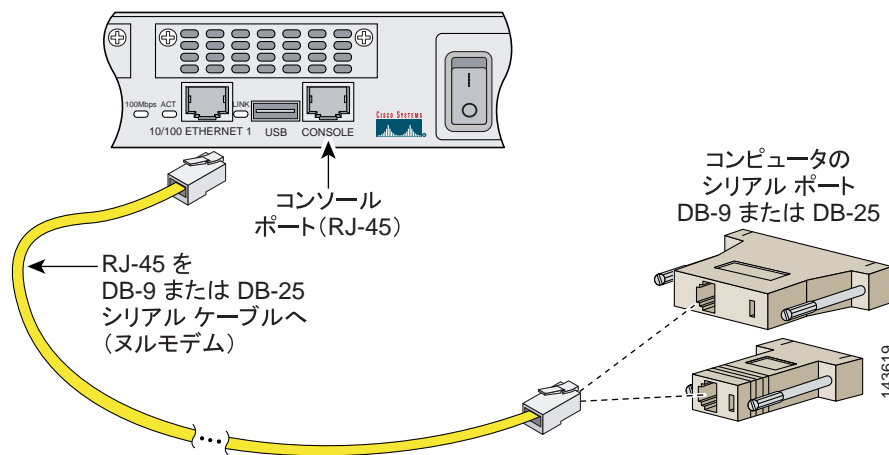


## 注意

必ず『*Regulatory Compliance and Safety Information for the Cisco Intrusion Detection and Prevention System 4200 Series Appliance Sensor*』の安全についての警告に目を通してから、正しい安全手順に従って次の手順を実行してください。

IDS-4215 をネットワークに設置するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** IDS-4215 をネットワーク上に配置します。
- ステップ 2** IDS-4215 に電源コードを接続し、入力電源（UPS を推奨）にプラグイン接続します。
- ステップ 3** ケーブルを接続します。このとき、一方の端に、コンピュータのシリアル ポートの必要に応じて DB-9 コネクタまたは DB-25 コネクタがあり、もう一方の端には RJ-45 コネクタがあるように接続します。



## (注)

コンソールポートを使用して、コンピュータに接続し、設定コマンドを入力します。アクセサリキットからシリアルケーブルを取り出します。シリアルケーブルアセンブリは、RJ-45 コネクタ付きの 180/ ロールオーバーケーブルで構成されています (DB-9 コネクタアダプタ PN 74-0495-01 および DB-25 コネクタアダプタ PN 29-0810-01)。

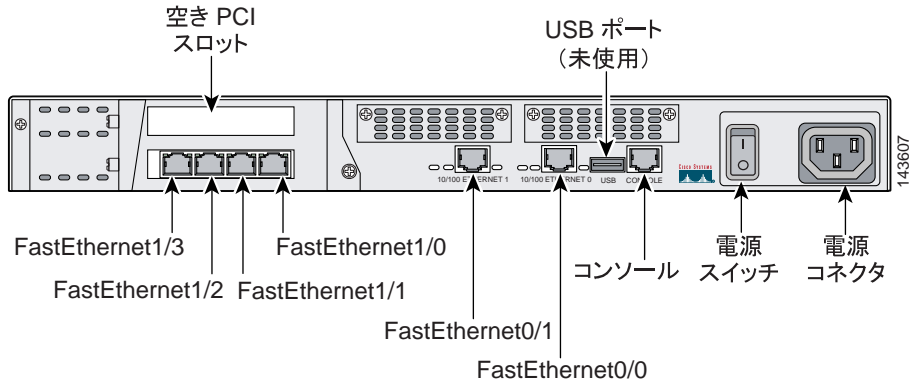


## (注)

180/ ロールオーバーケーブルまたはストレートパッチケーブルを使用して、IDS-4215 を RJ-45 またはヒドラケーブルアセンブリが付属するターミナルサーバ上のポートに接続できます。IDS-4215 のコンソールポートから該当するケーブルをターミナルサーバのポートに接続します。ターミナルサーバのセットアップ方法については、P.1-15 の「ターミナルサーバのセットアップ」を参照してください。

**ステップ 4** RJ-45 コネクタをコンソール ポートに接続し、もう一方の端をコンピュータのシリアル ポート コネクタに接続します。

**ステップ 5** ネットワーク ケーブルを接続します。



IDS-4215 には、次のインターフェイスがあります。

- FastEthernet0/0 は、コマンド/コントロール ポートです。
- FastEthernet0/1 は、センシング ポートです。
- FastEthernet1/0、FastEthernet1/1、FastEthernet1/2、および FastEthernet1/3 は、オプションのセンシング ポートであり、4FE カードを取り付けた場合に利用できます。

**ステップ 6** IDS-4215 の電源を入れます。

IDS-4215 を 5.x にアップグレードする前に、BIOS バージョンが 5.1.7 であること、および ROMMON バージョンが 1.4 であることを確認します。手順については、[P.3-11](#) の「[BIOS および ROMMON のアップグレード](#)」を参照してください。



**(注)** BIOS/ROMMON アップグレードは、4.1(4) システム イメージをインストールするためには必要ですが、5.0(2) システム イメージのインストールには不要です。これは、5.0(2) システム イメージは古いバージョンの ROMMON に適用されるサイズ制限より小さく、4.1(4) システム イメージはそのサイズ制限より大きいからです。

**ステップ 7** IDS-4215 を初期化します。

手順については、[P.9-3](#) の「[センサーの初期化](#)」を参照してください。

**ステップ 8** IDS-4215 を最新の Cisco IPS ソフトウェアにアップグレードします。

手順については、[P.10-2](#) の「[Cisco IPS ソフトウェアの入手方法](#)」を参照してください。

これで、IDS-4215 における侵入防御を設定できるようになりました。

## BIOS および ROMMON のアップグレード

一部の TFTP サーバは、転送できる最大ファイル サイズを 32 MB までに制限しています。そのため、次の TFTP サーバをお勧めします。

- Windows の場合：  
Tftpd32 バージョン 2.0。次の URL で入手できます。  
<http://tftpd32.jounin.net/>
- UNIX の場合：  
Tftp-hpa シリーズ。次の URL で入手できます。  
<http://www.kernel.org/pub/software/network/tftp/>

BIOS/ROMMON アップグレードユーティリティ (IDS-4215-bios-5.1.7-rom-1.4.bin) は、IDS-4215 の BIOS をバージョン 5.1.7 に、ROMMON をバージョン 1.4 にアップグレードします。

IDS-4215 の BIOS および ROMMON をアップグレードするには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** BIOS ROMMON アップグレードユーティリティ (IDS-4215-bios-5.1.7-rom-1.4.bin) を、IDS-4215 からアクセス可能な TFTP サーバの TFTP ルート ディレクトリにダウンロードします。

Cisco.com のソフトウェアの場所を確認する方法については、P.10-2 の「Cisco IPS ソフトウェアの入手方法」を参照してください。



(注) IDS-4215 イーサネット ポートに接続されているネットワークから TFTP サーバの場所にアクセスできることを確認します。

- ステップ 2** IDS-4215 をブートします。

リブートの間、IDS-4215 は、BIOS POST を実行します。POST の完了後、コンソールに「Evaluating Run Options ...」というメッセージが約 5 秒間表示されます。

- ステップ 3** このメッセージが表示されている間に **Ctrl+R** を押して、ROMMON メニューを表示します。

コンソールの表示は次のようなものになります。

```
CISCO SYSTEMS IDS-4215
Embedded BIOS Version 5.1.3 05/12/03 10:18:14.84
Compiled by ciscouser
Evaluating Run Options ...
Cisco ROMMON (1.2) #0: Mon May 12 10:21:46 MDT 2003
Platform IDS-4215
0: i8255X @ PCI(bus:0 dev:13 irq:11)
1: i8255X @ PCI(bus:0 dev:14 irq:11)
Using 1: i82557 @ PCI(bus:0 dev:14 irq:11), MAC: 0000.c0ff.ee01
Use ? for help.
rommon>
```

- ステップ 4** 必要に応じて、TFTP のダウンロードに使用するポート番号を変更します。

```
rommon> interface port_number
```

## ■ BIOS および ROMMON のアップグレード

使用中のポートが `rommon` プロンプトの直前に示されます。Using 1: i82557 @ PCI(bus:0 dev:14 irq:11), MAC: 0000.c0ff.ee01 というテキストに示されているとおり、ポート 1 (デフォルトポート) が使用されています。



(注) ポート 0 (モニタリングポート) およびポート 1 (コマンド / コントロールポート) は、シャーシの背面にラベルで表示されています。

**ステップ 5** IDS-4215 上のローカルポートの IP アドレスを指定します。

```
rommon> address ip_address
```



(注) IDS-4215 に割り当てられているのと同じ IP アドレスを使用します。

**ステップ 6** TFTP サーバの IP アドレスを指定します。

```
rommon> server ip_address
```

**ステップ 7** ゲートウェイの IP アドレスを指定します。

```
rommon> gateway ip_address
```

**ステップ 8** ローカルのイーサネットポートから `ping` コマンドを使用することにより、TFTP サーバにアクセスできることを確認します。

```
rommon> ping server_ip_address
rommon> ping server
```

**ステップ 9** イメージのダウンロード元である TFTP ファイルサーバ上のファイル名を指定します。

```
rommon> file filename
```

例

```
rommon> file IDS-4215-bios-5.1.7-rom-1.4.bin
```



(注) ファイルの場所の構文は、使用している TFTP のタイプに応じて異なります。上記の形式でうまくいかない場合は、システム管理者またはネットワーク管理者に適切な構文を問い合せてください。

**ステップ 10** アップデートユーティリティをダウンロードして実行します。

```
rommon> tftp
```

**ステップ 11** アップデート プロンプトで **y** を入力すると、アップデートが更新されます。

IDS-4215 は、アップデートが終了するとリブートします。

**注意**

アップデート プロセスの間は IDS-4215 の電源を切らないでください。電源を切ると、アップグレードが失敗する場合があります。アップグレードが失敗した場合、IDS-4215 は使用できなくなり、RMA が必要になります。

## シャーシカバーの取り外しと取り付け

**警告**

この製品は、短絡（過電流）に対する保護を建物の設備に依存しています。保護装置の定格が、アメリカ合衆国の場合 120 VAC、20 A U.S.（それ以外の場合 240 VAC、16-20 A）を超えていないことを確認してください。ステートメント 1005

**警告**

この機器は、接地されている必要があります。アース線は絶対に取り外さないでください。また、アース線が正しく取り付けられていない状態では、絶対に機器を動作させないでください。アースが適正かどうか確信が持てない場合は、しかるべき電気検査機関または電気技術者に相談してください。ステートメント 1024

**警告**

空きスロット用の前面プレートおよびカバー パネルには、3つの重要な役目があります。シャーシ内の電圧や電流に触れることがないようにすること、他の機器に障害を引き起こすおそれのある電磁干渉（EMI）を抑えること、およびシャーシ内の冷却空気が正しく流れるようにすることです。システムを動作させる前に、必ずカード、前面プレート、前面カバー、および背面カバーをすべて正しく取り付けてください。ステートメント 1029

**警告**

この装置には、電源配線が 2 つ以上接続されている場合があります。装置への電源供給を断つには、すべての接続を切り離してください。ステートメント 1028

**注意**

必ず、『*Regulatory Compliance and Safety Information for the Cisco Intrusion Detection and Prevention System 4200 Series Appliance Sensor*』の安全についての警告に目を通してから、正しい安全手順に従ってシャーシカバーの取り外しと取り付けを行ってください。

この項では、IDS-4215 シャーシカバーの取り外しと取り付けについて説明します。

この項で取り上げる事項は次のとおりです。

- シャーシカバーの取り外し (P.3-15)
- シャーシカバーの取り付け (P.3-16)

## シャーシカバーの取り外し



(注) アプライアンスのシャーシカバーを取り外しても、シスコの保証には影響はありません。IDS-4215 のアップグレードに、特殊な工具は不要です。また、アップグレードによって無線周波が漏れることもありません。

シャーシカバーを取り外すには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** CLI にログインします。

**ステップ 2** IDS-4215 の電源を切る準備をします。

```
sensor# reset powerdown
```

電源停止メッセージが表示されたら、ステップ 3 に進みます。



(注) IDM を使用して IDS-4215 の電源を切ることもできます。

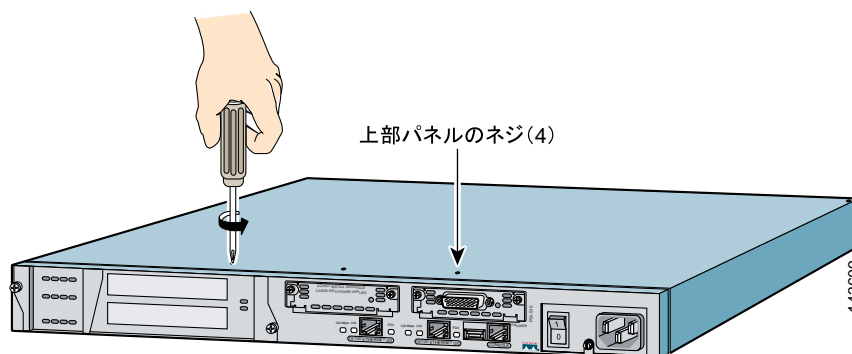
**ステップ 3** IDS-4215 の電源を切ります。

**ステップ 4** 電源コードと他のケーブルを IDS-4215 から取り外します。

**ステップ 5** ESD 対策が施された環境に IDS-4215 を置きます。

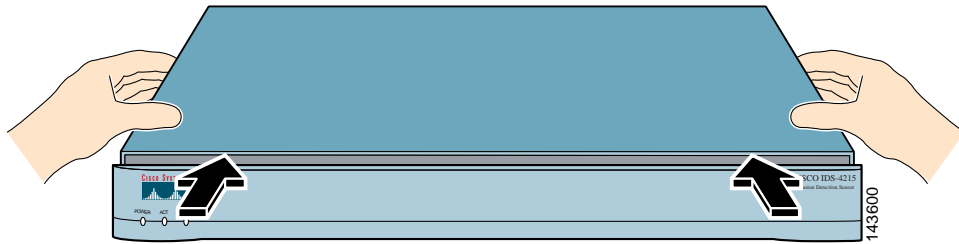
詳細については、P.1-27 の「ESD 環境での作業」を参照してください。

**ステップ 6** シャーシの背面にあるネジを取り外します。

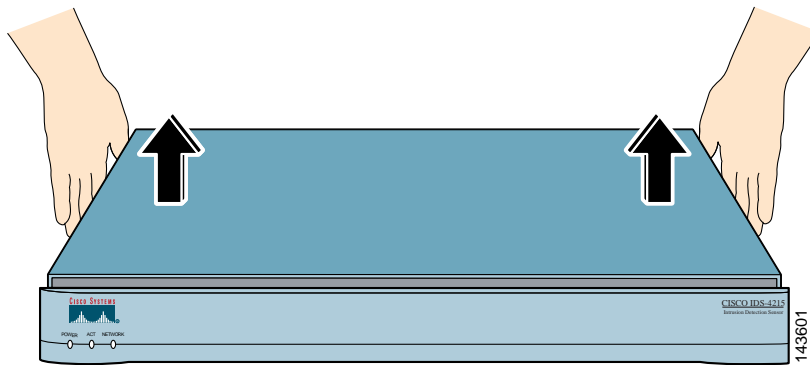


## ■ シャーシカバーの取り外しと取り付け

**ステップ7** IDS-4215 の前面に向かって、上部パネルを1インチ（2.54 cm）後方に押しします。



**ステップ8** 上部パネルを引っ張り上げ、安全な場所に置きます。



## シャーシカバーの取り付け



### 注意

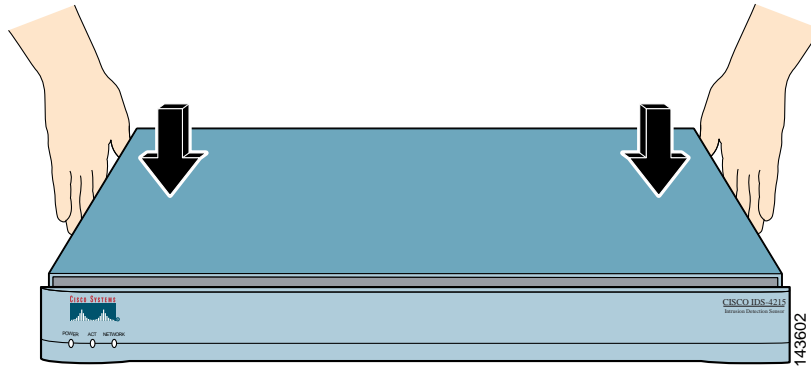
シャーシカバーを外したままで、IDS-4215 を動作させないでください。シャーシカバーの役割は、内蔵部品の保護、短絡の防止、および電子部品を冷却するエアフローを適正に供給することです。

シャーシカバーを取り付けるには、次の手順を実行します。

**ステップ1** シャーシを安定した台の上に、前面パネルが手前に来るように置きます。

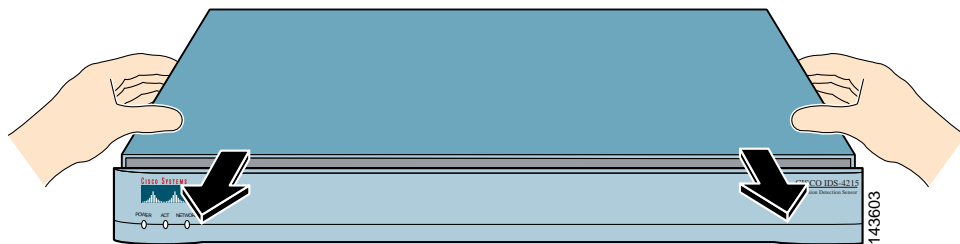
**ステップ2** 上部パネルを持ち、上部パネルの後部にあるタブがシャーシの底と同じ高さになるようにします。



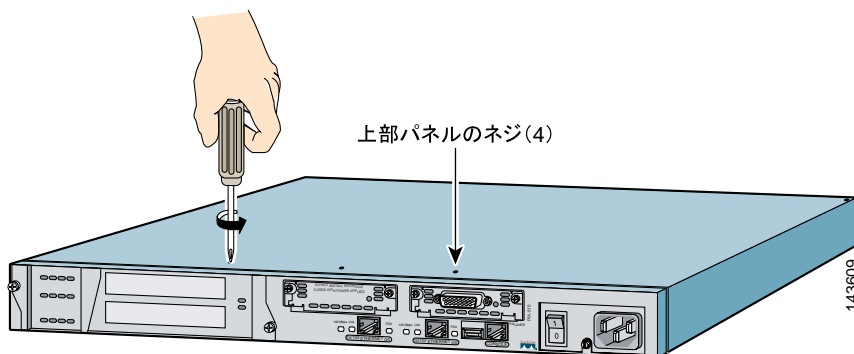


**ステップ 3** 上部パネルの前面をシャーシに押し下げて、シャーシの側面パネルの下に上部パネルの側面のタブがはまったことを確認します。

**ステップ 4** 上部パネルを手前に滑らせて、上部パネルのタブがシャーシの背面パネルの下にはまり、上部パネルの下に背面パネルのタブがはまったことを確認します。



**ステップ 5** 先ほど外したネジで上部パネルを固定します。



**ステップ 6** シャーシをラック、机、またはテーブルの元の場所に戻します。

ラックに戻す場合は、P.3-7の「ラックマウント」を参照してください。

## ■ IDE ハードディスク ドライブの取り外しと取り付け

**ステップ 7** ネットワーク インターフェイス ケーブルを再度接続します。

手順については、P.3-9 の「IDS-4215 の設置」を参照してください。

## IDE ハードディスク ドライブの取り外しと取り付け



### 警告

この装置の設置、交換、保守は、訓練を受けた相応の資格のある人が行ってください。ステートメント 1030



### 注意

シスコの交換用 IDE ハードディスク ドライブだけを使用してください。他のハードディスク ドライブが IPS で正しく動作するかどうかは保証できません。



### 注意

必ず、『*Regulatory Compliance and Safety Information for the Cisco Intrusion Detection and Prevention System 4200 Series Appliance Sensor*』の安全についての警告に目を通してから、正しい安全手順に従ってハードディスク ドライブの取り外しと取り付けを行ってください。

この項では、IDE ハードディスク ドライブの取り外しと取り付けについて説明します。取り上げる事項は次のとおりです。

- ハードディスク ドライブの取り外し (P.3-18)
- ハードディスク ドライブの取り付け (P.3-20)

## ハードディスク ドライブの取り外し

IDS-4215 からハードディスク ドライブを取り外すには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** CLI にログインします。

**ステップ 2** IDS-4215 の電源を切る準備をします。

```
sensor# reset powerdown
```

電源停止メッセージが表示されたら、ステップ 3 に進みます。



(注) IDM を使用して IDS-4215 の電源を切ることもできます。

**ステップ 3** IDS-4215 の電源を切ります。

**ステップ 4** 電源コードと他のケーブルを IDS-4215 から取り外します。

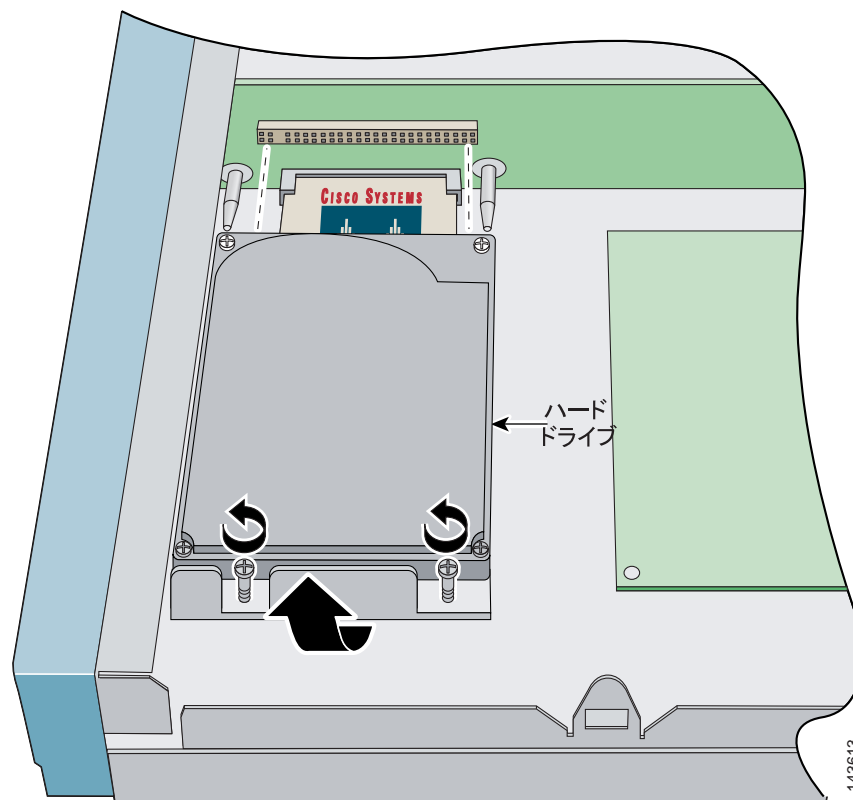
**ステップ 5** ESD 対策が施された環境に IDS-4215 を置きます。

詳細については、P.1-27 の「ESD 環境での作業」を参照してください。

**ステップ 6** シャーシカバーを取り外します。

手順については、P.3-15 の「シャーシカバーの取り外し」を参照してください。

**ステップ 7** ハードディスク ドライブ キャリアの 2 本の非脱落型ネジを緩めます。



**ステップ 8** ハードディスク ドライブをしっかりと持ち、まっすぐ後ろに引き、ライザーカードコネクタから外れるまで動かします。コネクタから完全に外れるまで、ハードディスク ドライブを持ち上げたり、左右に揺すらないでください。

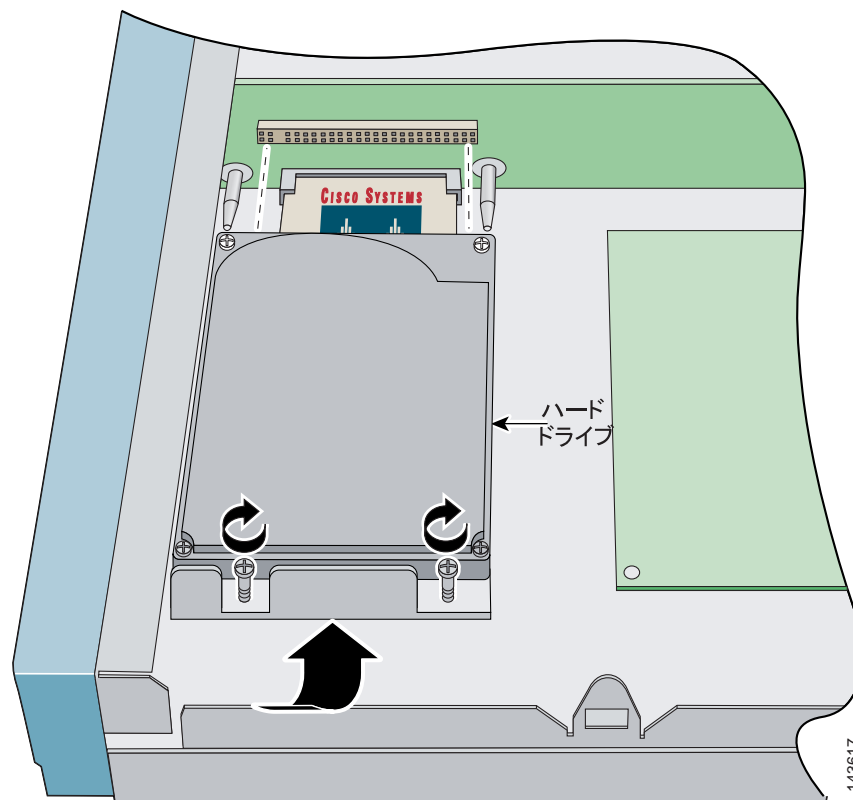
## ハードディスク ドライブの取り付け

ハードディスク ドライブを IDS-4215 に取り付けるには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** ESD 対策が施された環境に IDS-4215 を置きます。

詳細については、[P.1-27](#) の「[ESD 環境での作業](#)」を参照してください。

**ステップ 2** ハードディスク ドライブ コネクタをライザー カードの 2 本のガイド ピンに合せます。



**ステップ 3** ハードディスク ドライブをライザー カード コネクタにまっすぐ押し込みます。ハードディスク ドライブを持ち上げたり、左右に揺すらないでください。ハードディスク ドライブを慎重に押し、コネクタに正しくはまるようにします。

**ステップ 4** 2 本の非脱落型ネジをしっかりと締めます。

**ステップ 5** シャーシ カバーを元に戻します。

手順については、[P.3-16](#) の「[シャーシ カバーの取り付け](#)」を参照してください。

## コンパクトフラッシュ デバイスの取り外しと取り付け



### 警告

この装置の設置、交換、保守は、訓練を受けた相応の資格のある人が行ってください。ステートメント 1030



### 注意

必ず、『*Regulatory Compliance and Safety Information for the Cisco Intrusion Detection and Prevention System 4200 Series Appliance Sensor*』の安全についての警告に目を通してから、正しい安全手順に従ってコンパクトフラッシュの取り外しと取り付けを行ってください。

この項では、IDS-4215 のコンパクトフラッシュ デバイスの取り外しと取り付けについて説明します。

この項で取り上げる事項は次のとおりです。

- [コンパクトフラッシュ デバイスの取り外し \(P.3-21\)](#)
- [コンパクトフラッシュ デバイスの取り付け \(P.3-23\)](#)

## コンパクトフラッシュ デバイスの取り外し

IDS-4215 からコンパクトフラッシュ デバイスを取り外すには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** CLI にログインします。

**ステップ 2** IDS-4215 の電源を切る準備をします。

```
sensor# reset powerdown
```

電源停止メッセージが表示されたら、ステップ 3 に進みます。



(注) IDM を使用して IDS-4215 の電源を切ることもできます。

**ステップ 3** IDS-4215 の電源を切ります。

**ステップ 4** 電源コードと他のケーブルを IDS-4215 から取り外します。

**ステップ 5** ESD 対策が施された環境に IDS-4215 を置きます。

詳細については、[P.1-27](#) の「[ESD 環境での作業](#)」を参照してください。

**ステップ 6** シャーシカバーを取り外します。

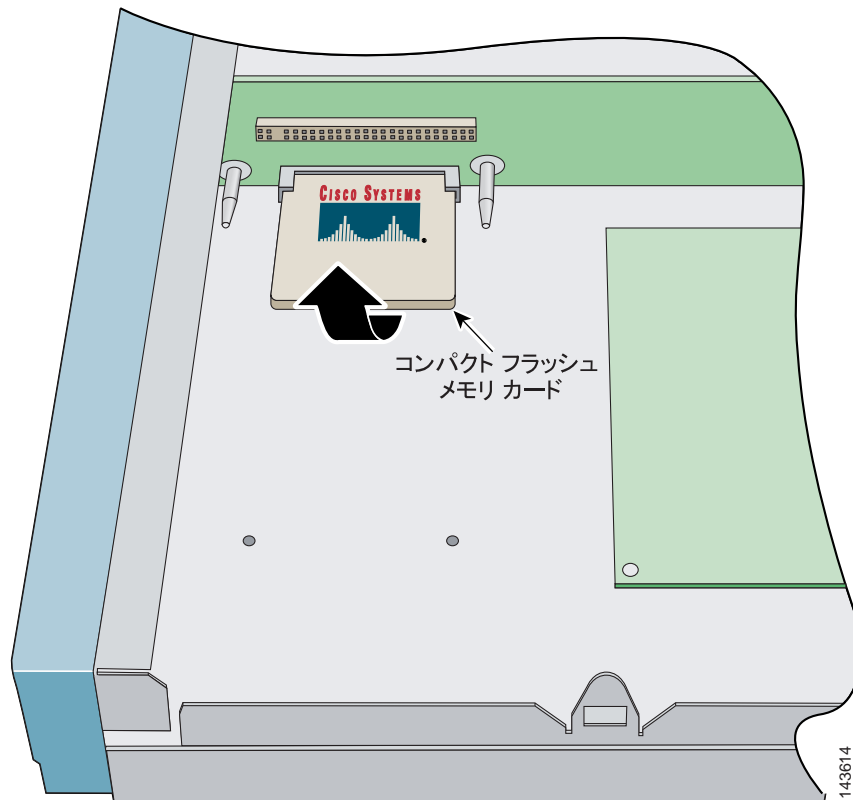
手順については、[P.3-15](#) の「[シャーシカバーの取り外し](#)」を参照してください。

## ■ コンパクトフラッシュデバイスの取り外しと取り付け

**ステップ7** ハードディスクドライブを取り外します。

手順については、P.3-18の「ハードディスクドライブの取り外し」を参照してください。

**ステップ8** コンパクトフラッシュデバイスをしっかり持ち、ライザーカードのコネクタから慎重に取り外します。



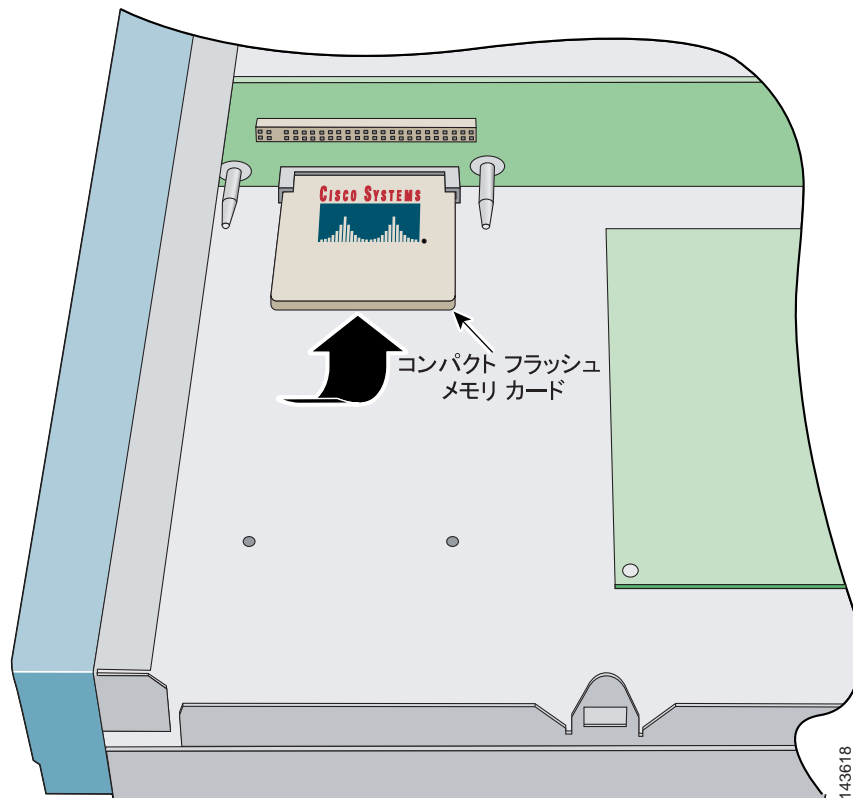
## コンパクトフラッシュ デバイスの取り付け

コンパクトフラッシュ デバイスを IDS-4215 に取り付けるには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** ESD 対策が施された環境に IDS-4215 を置きます。

詳細については、[P.1-27](#) の「[ESD 環境での作業](#)」を参照してください。

**ステップ 2** コンパクトフラッシュ デバイスをライザー カードのコネクタに合せます。



**ステップ 3** コンパクトフラッシュ デバイスがコネクタに完全にはまるまで押し込みます。

**ステップ 4** ハードディスク ドライブを元に戻します。

手順については、[P.3-20](#) の「[ハードディスク ドライブの取り付け](#)」を参照してください。

**ステップ 5** シャーシカバーを元に戻します。

手順については、[P.3-16](#) の「[シャーシカバーの取り付け](#)」を参照してください。

## 4FE カードの取り外しと取り付け



### 警告

この装置の設置、交換、保守は、訓練を受けた相応の資格のある人が行ってください。ステートメント 1030



### 注意

必ず、『*Regulatory Compliance and Safety Information for the Cisco Intrusion Detection and Prevention System 4200 Series Appliance Sensor*』の安全についての警告に目を通してから、正しい安全手順に従って 4FE カードの取り付けと取り外しを行ってください。

4FE カード取り付け済みの IDS-4215 を注文できます。また、IDS-4215 に 4FE カードを取り付けて、アップグレードし、インターフェイスを 4 つ追加することもできます。

この項で取り上げる事項は次のとおりです。

- [4FE カードの取り外し \(P.3-24\)](#)
- [4FE カードの取り付け \(P.3-26\)](#)

## 4FE カードの取り外し

4FE カードを取り外すには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** CLI にログインします。

**ステップ 2** IDS-4215 の電源を切る準備をします。

```
sensor# reset powerdown
```

電源停止メッセージが表示されたら、ステップ 3 に進みます。



**(注)** IDM を使用して IDS-4215 の電源を切ることもできます。

**ステップ 3** IDS-4215 の電源を切ります。

**ステップ 4** 電源コードと他のケーブルを IDS-4215 から取り外します。

**ステップ 5** ESD 対策が施された環境に IDS-4215 を置きます。

詳細については、[P.1-27 の「ESD 環境での作業」](#)を参照してください。

**ステップ 6** シャーシカバーを取り外します。

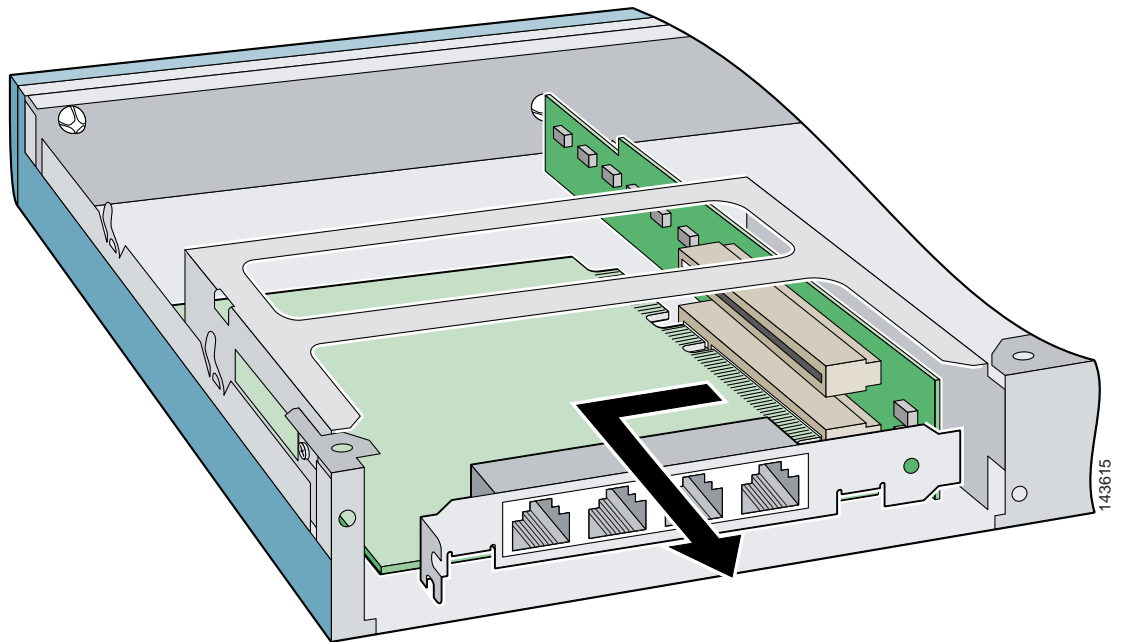
手順については、[P.3-15 の「シャーシカバーの取り外し」](#)を参照してください。

**ステップ 7** 4FE カードの接続フランジを背面カバー プレートに留めている非脱落型ネジ 1 本を緩めます。

**ステップ 8** 背面カバーの左側にある 2 本の非脱落型ねじを緩め、背面カバーを横に置きます。

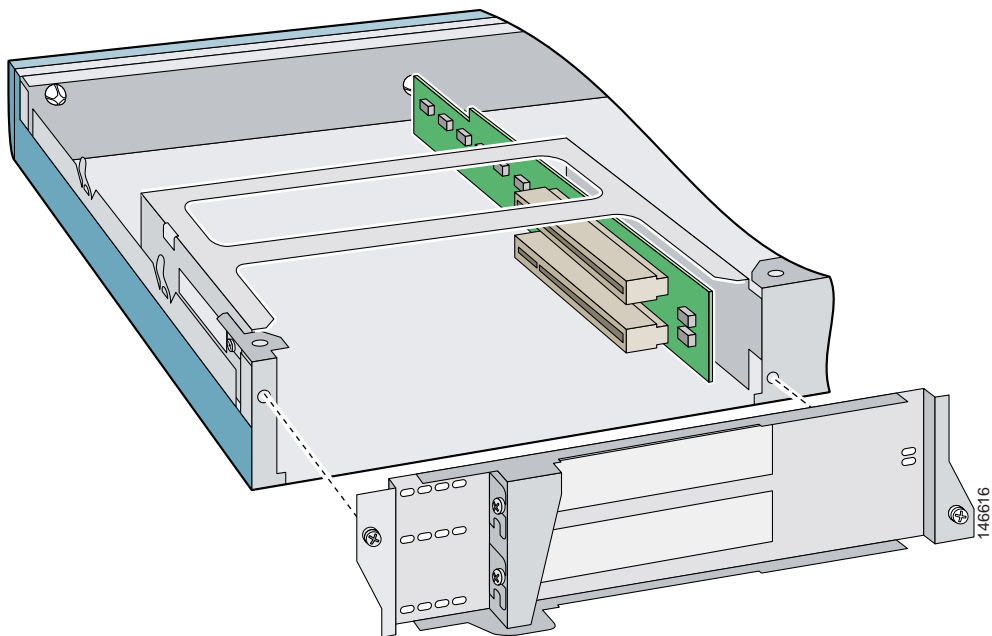


**ステップ 9** 4FE カードをしっかりと持ち、スロットから外し、ケージの開口部を通して引き出します。



**ステップ 10** 背面カバー プレートから下のスロット カバーを元に戻します。

**ステップ 11** 背面カバー プレートを元に戻し、2 本の非脱落型ネジを締めます。



**ステップ 12** シャーシカバーを元に戻します。

手順については、[P.3-16](#)の「シャーシカバーの取り付け」を参照してください。

## 4FE カードの取り付け

4FE カードは下のスロットに取り付けることを推奨します。4FE カードは、上のスロットに取り付けてもサポートされません。



(注)

IDS-4215 に取り付けることができる 4FE カードは 1 枚だけです。

IDS-4215 に 4FE カードを取り付けるには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** IDS-4215 の電源を切る準備をします。

```
sensor# reset powerdown
```

電源停止メッセージが表示されたら、ステップ 2 に進みます。

**ステップ 2** IDS-4215 の電源を切ります。

**ステップ 3** 電源コードと他のケーブルを IDS-4215 から取り外します。

**ステップ 4** ESD 対策が施された環境に IDS-4215 を置きます。

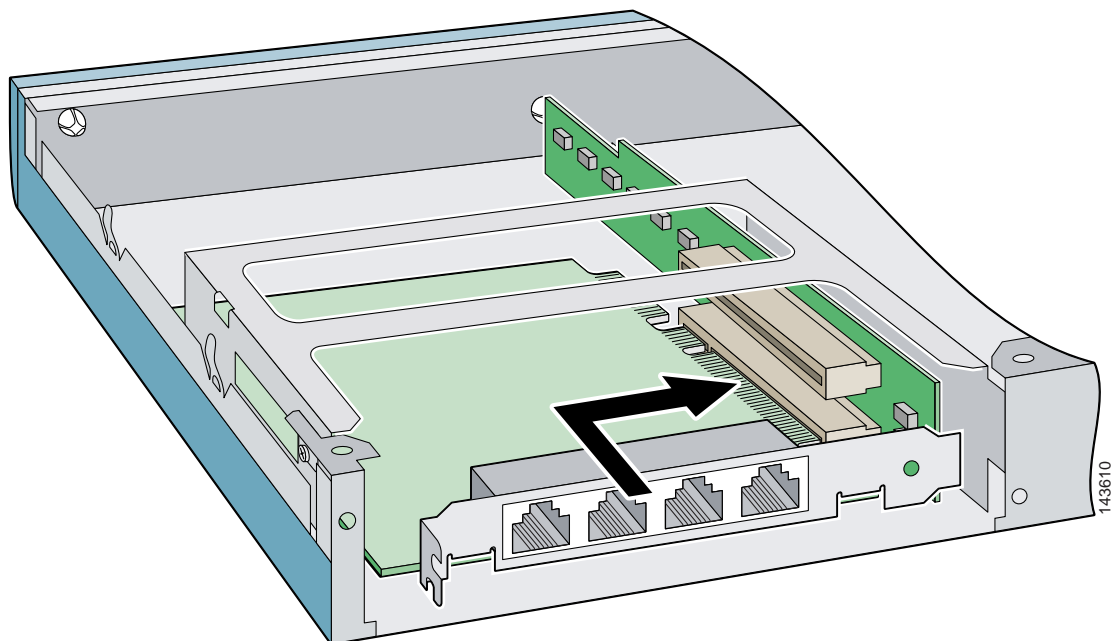
詳細については、[P.1-27](#) の「[ESD 環境での作業](#)」を参照してください。

**ステップ 5** シャーシカバーを取り外します。

手順については、[P.3-15](#) の「[シャーシカバーの取り外し](#)」を参照してください。

**ステップ 6** 背面カバー プレートの左側にある 2 本の非脱落型ねじを緩め、背面カバー プレートを横に置きます。

**ステップ 7** ケージの開口部を通して 4FE カードを下のスロットに挿入します。

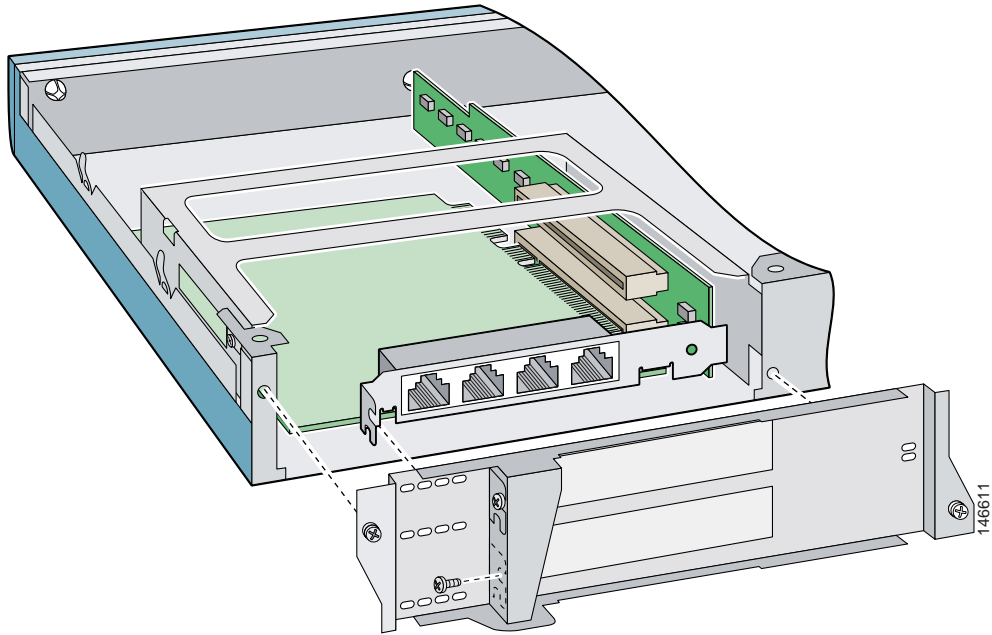




(注) スロットに 4FE カードを挿入するとき、カードのコネクタの端はスロットの端より外側に出ています。これは、カードの使用や動作に影響しません。

**ステップ 8** 背面カバー プレートから下のスロット カバーを取り外します。

**ステップ 9** 4FE カード上の接続フランジが背面カバー プレートのスロットを通り抜けることを確認し、背面カバー プレートを取り付けます。



**ステップ 10** 4FE カードの接続フランジを背面カバー プレートの留めている非脱落型ネジ 1 本をしっかり締めます。非脱落ネジをしっかり締めて、背面カバー プレートをアプライアンスに取り付けます。

**ステップ 11** シャーシカバーを元に戻します。

手順については、[P.3-16](#) の「シャーシカバーの取り付け」を参照してください。

新しいインターフェイス (FastEthernet1/0、FastEthernet1/1、FastEthernet1/2、および FastEthernet1/3) を割り当てる必要があります。CLI の手順については、『*Configuring the Cisco Intrusion Prevention System Sensor Using the Command Line Interface 5.1*』の「Configuring Interfaces」を参照してください。IDM の手順については、『*Installing and Using Cisco Intrusion Prevention System Device Manager Version 5.1*』の「Configuring Interfaces」を参照してください。

## ■ 4FE カードの取り外しと取り付け